研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-133		20-099	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Comparison of suicide risk and other outcomes among boys and girls who self-harm
自傷行為のある少年および少女の自殺等リスクの比較

執筆者

Ohlis A, Bjureberg J, Lichtenstein P, D'Onofrio BM, Fruzzetti AE, Cederlöf M, Hellner C.

掲載誌

Eur Child Adolesc Psychiatry. 2020 Dec;29(12):1741-1746. doi: 10.1007/s00787-020-01490-y.

キーワード	PMID
自傷行為、自殺、性差	32056009

要　旨

目的：
自傷行為と自殺などのリスクとの関連を男女別に検討した報告は少なく、性別、自傷、自殺の関連については結論づけられていない。本研究では、思春期における自傷行為と自殺等のリスクとの関連を男女別に検討した。

方法：
2001 年から 2015 年までにストックホルムにおけるコホート研究（CAMHS)に参加した 0-17 歳の 110072 人を対象とし、2015 年まで追跡した。Cox 比例ハザードモデルを用い、自傷行為のある者における、アルコール乱用、薬物乱用、精神科入院、犯罪および自殺のハザード比（HR)および 95%信頼区間（CI)を男女別に算出した。

結果：
追跡期間の中央値は 5.8 年であった。自傷行為は男性の 2.2%、女性の 8.7%に認めた。男女ともに、自傷行為のある群でアルコール乱用（男性：HR 8.0, 95%CI 6.6-9.8, 女性: HR 8.6, 95CI 7.8-9.5)のリスクが高かった。同様に、薬物乱用のリスクは高く、HR は、自傷行為ある女性（HR 11.2, 95%CI 9.9-12.7)の方が自傷行為のある男性（HR 6.5, 95%CI 5.2-8.0)よりも高値であった。また、男女ともに、自傷行為のある群で、将来の自殺リスクが高かった（男性：HR 10.7, 95%CI 3.2-35.2, 女性: HR 9.1, 95CI 4.3-19.1)。これらの関連は、社会的要因および追跡開始時の年齢で調整後、弱まるものの有意であった（男性：HR 4.7, 95%CI 1.1-20.1, 女性: HR 7.8, 95CI 3.7-16.7)。

結論：
男女ともに、自傷行為のある群は、自殺リスクだけでなく、アルコール、薬物乱用などの重要なリスク因子であることが示された。